

## 今日のみ言葉 281 「 苦しきは、あなたの真実のゆえ 」

2018.07.10

わたしを苦しめられたのは、あなたの真実のゆえです。(詩篇119の75より)

In faithfulness You have afflicted me.

私たちが生きていく歩みの中で、数々の苦しいこと、なぜこんなことが...と思われるようなことが生じる。ときにはそうした苦しみが非常な重荷を伴うときには、生きる力をも奪い取り、死へと至ることもある。

病気、家族の重い病気や障がい、あるいは家族という一番身近な者同士での反目、職業における困難、差別、災害、事故、内乱、飢え、迫害...等々、この世界にははるかな昔から、現代に至るまで、いかに科学技術や民主主義、人権意識などの向上や平和への願いがあってもなお

そうしたことからくる苦しきは絶えることがない。

周囲を見てもこんな苦しみに遭っている人は、ほとんどいない、なのになぜ自分が...という思いは そうした状況に置かれた多くの人々が深い魂の疼き<sup>うず</sup>とともに生じるであろう。

そして、人間ではどうすることもできないある大きな力ー 運命がそのようにしたのだ、という思いにもつながる。

そうした人生の荒海に呑まれそうになっていく私たちに、ここにあげた聖書の言葉は、呑み込まれないための命綱となる。

それらすべての苦しきは、運命の魔の手によるのではなく、神の真実(\*)による、と信じていることである。そんなことはあり得ないし、とてものように信じられない、と直ちに反論が出るかもしれない。

しかし、神の示される道は、私たちが理性的に納得できるものばかりでは決してない。いかに考えても不可解、まったくの謎だ、ということはいくらでも生じている。神の愛や真実がどこになるのか、そんなものはないーと断言する人がおそらくとくに日本では圧倒的多数を占めているだろう。そうした愛の神を信じる人は、わずかに1%程度と、世界的にみても驚くべき少数だからである。

それでもなお、私たちがここにある聖書の言葉を信じていく道は開かれている。それは、一数千年を経ても、なおその真理は変わらないし、そこから信仰によってその小道へと入っていく者もまた無数に生じてきた。

狭き門から入れ、といわれているとおりである。そして、求めよ、そうすれば、与えられる、苦しみから逃れる路、新たな力が与えられるーという約束を信じて生きる道がだれにでも開かれている。

(\*) 原文のヘブル語では、エムナー、ギリシャ語訳ではアレーセイア。なお「真実」を意味するギリシャ語は、ほかにもピスティス、形容詞形でのピストスがよく用いられています。



エゾツツジは、以前にも紹介したことがありますが、こうした荒野のような岩肌と樹木も何もないような二千メートル近い北海道の高山に咲いている姿は、心惹かれるものがあります。

冬季には氷点下数十度になり、さえぎるものない稜線地帯では、激しい寒風がふきつのもり、初夏においてもまだ雪深く、9月にははや雪が降るという厳しい自然のなかに、こうした可憐な美しさ、その鮮やかな色彩をもって存在している姿は、まさに神の国からの力と美を受けとって咲いていると感じます。

このエゾツツジは、樹木の仲間であるけれど、このように高さは20cm前後で、草のようにつつましい姿です。

いかに厳しい環境でも神は花を咲かせる。それは、人間の世界でもいえることで、経済的にも能力的にも恵まれている人が、心の中まで清く美しいということはなかなか伴わないものです。

かえって、困難な病気や障がい、あるいは家庭的にも恵まれず、苦しいなかで生きてきた方々が、その心の世界に清い花を咲かせている、ということもしばしばです。

そうしたことの中にも、愛の神を感じるすることができます。(文、写真ともT.YOSHIMURA)